

基図は地理院地図と Google Maps を使用しており、データベース画面上で切り替えが可能

ブラウザ上で地図の拡大縮小が可能

地点をクリックするとその場所の地質柱状図を閲覧可能



地域によってはアイコンが色分けされており、津波堆積物のある・なしが視覚的に理解可能

図 1. 津波堆積物データベース (https://gbank.gs.j.jp/tsunami_deposit_db/) の閲覧画面 ((独) 産業技術総合研究所 [課題番号 5001])

グーグルマップを活用しており、GUI 操作により調査場所の結果を閲覧可能である。

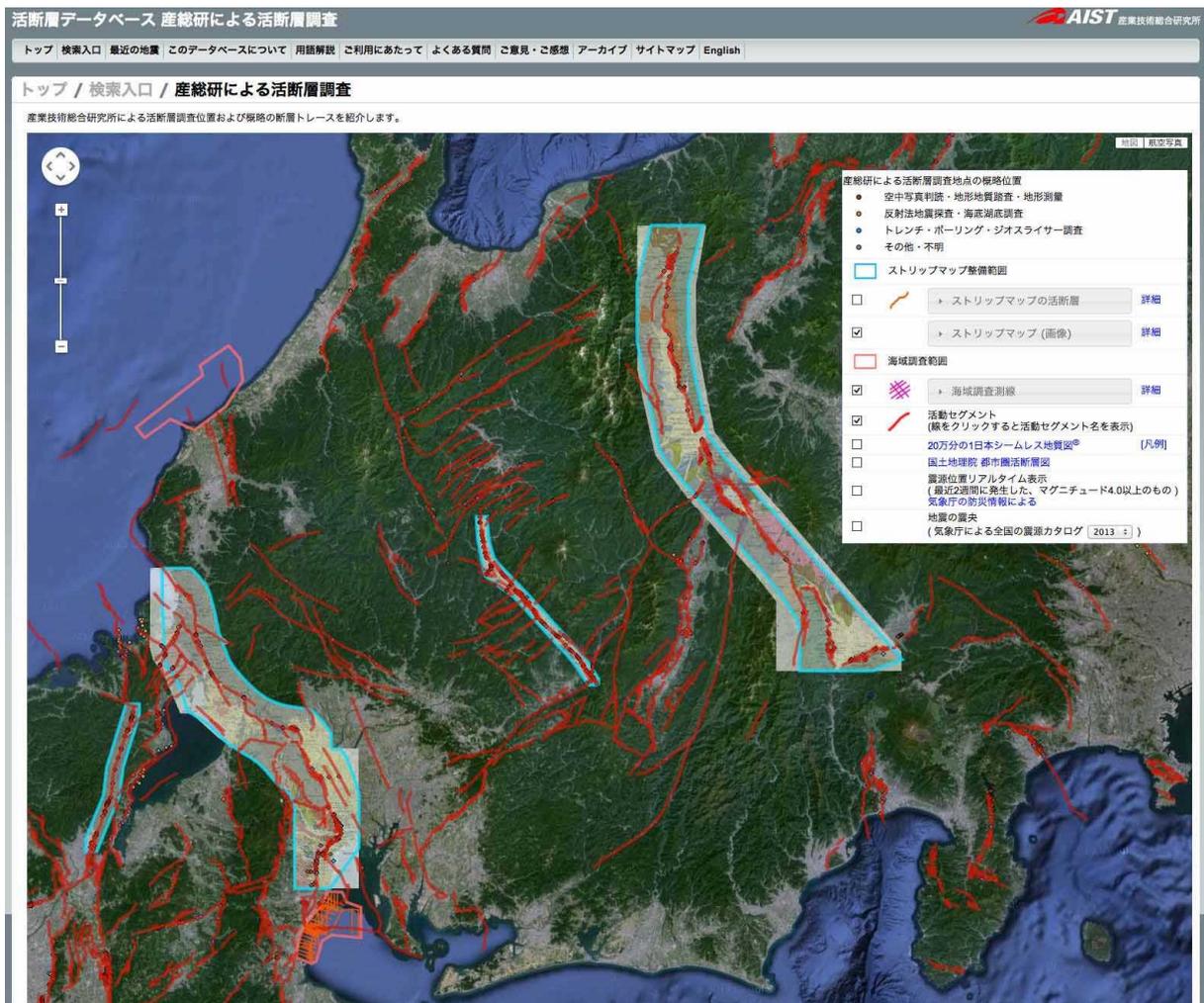


図2. 活断層データベース (https://gbank.gsj.jp/activefault/index_gmap.html) の活断層調査の検索画面 ((独) 産業技術総合研究所 [課題番号 5002])

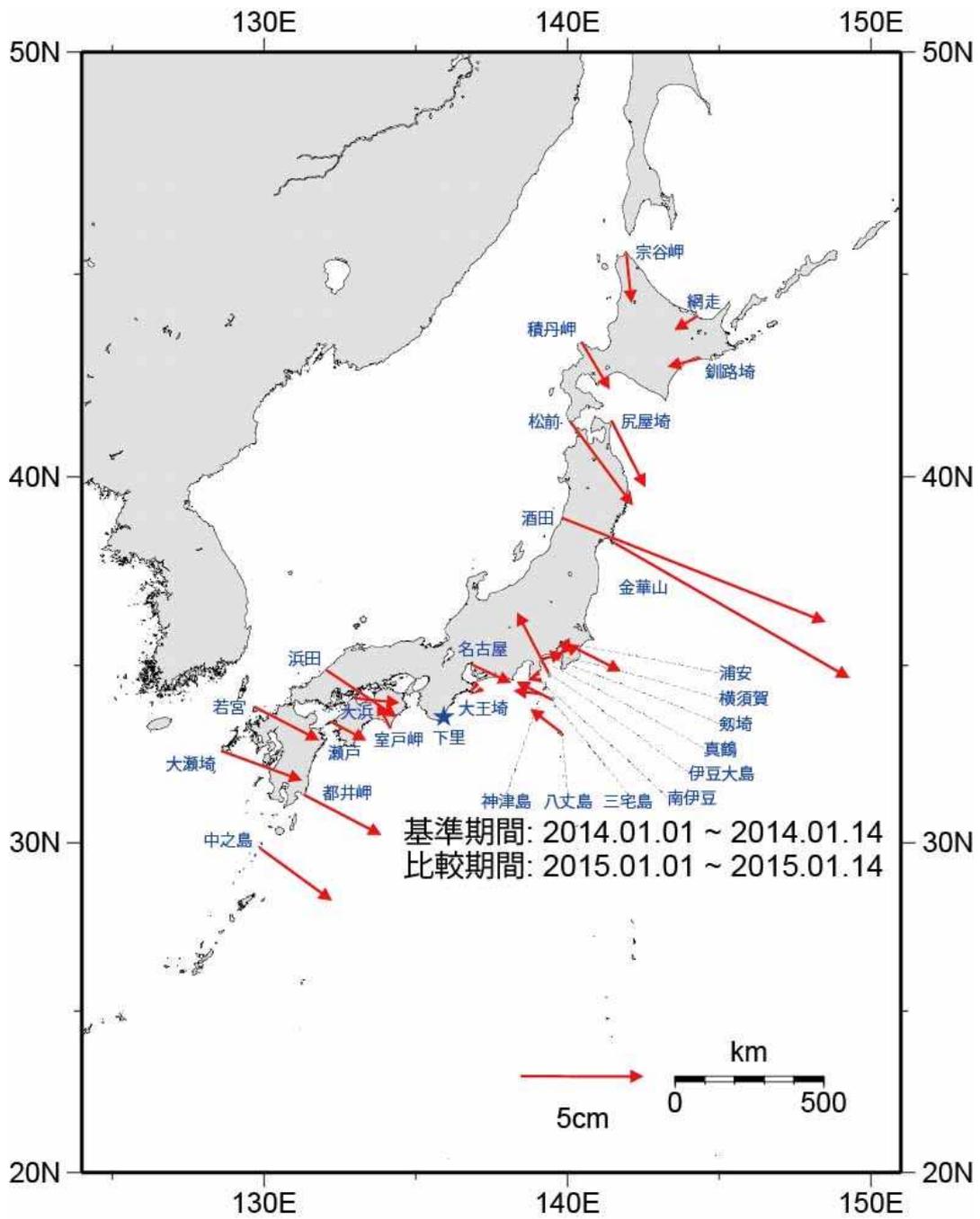


図 3. DGPS 局等の GPS 連続観測から求めた水平変異 (下里局固定) (海上保安庁 [課題番号 8004])

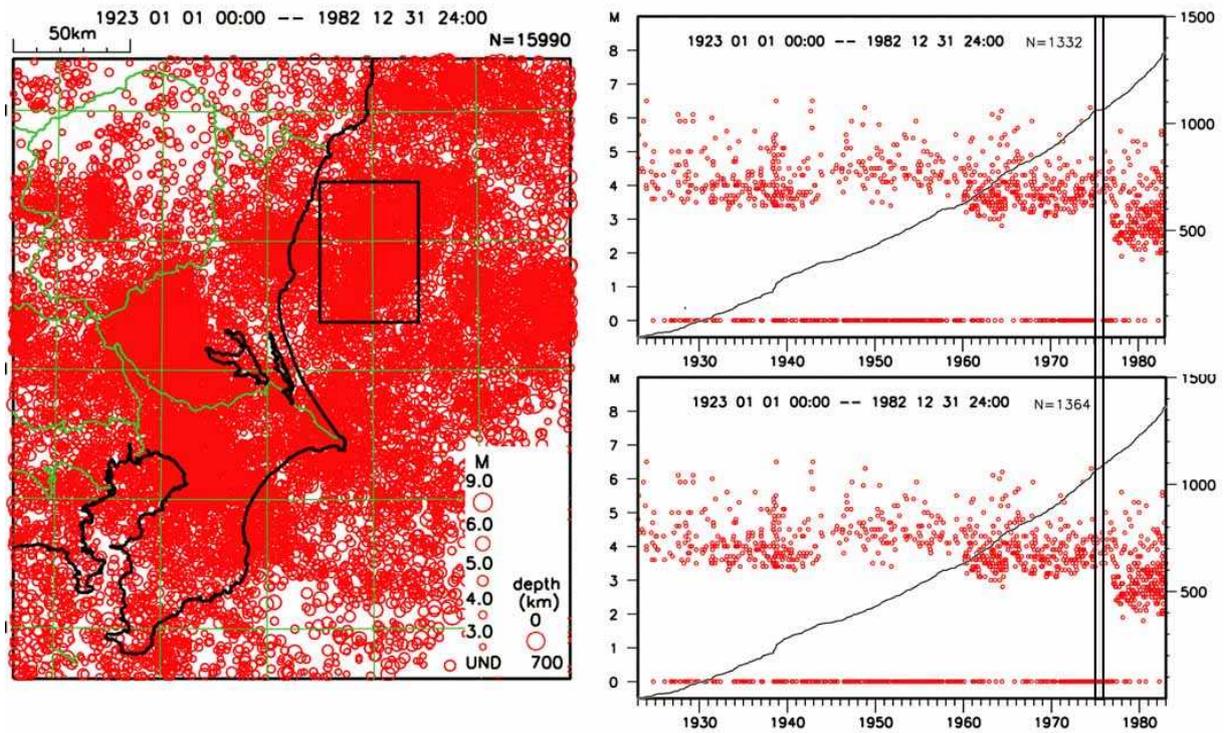
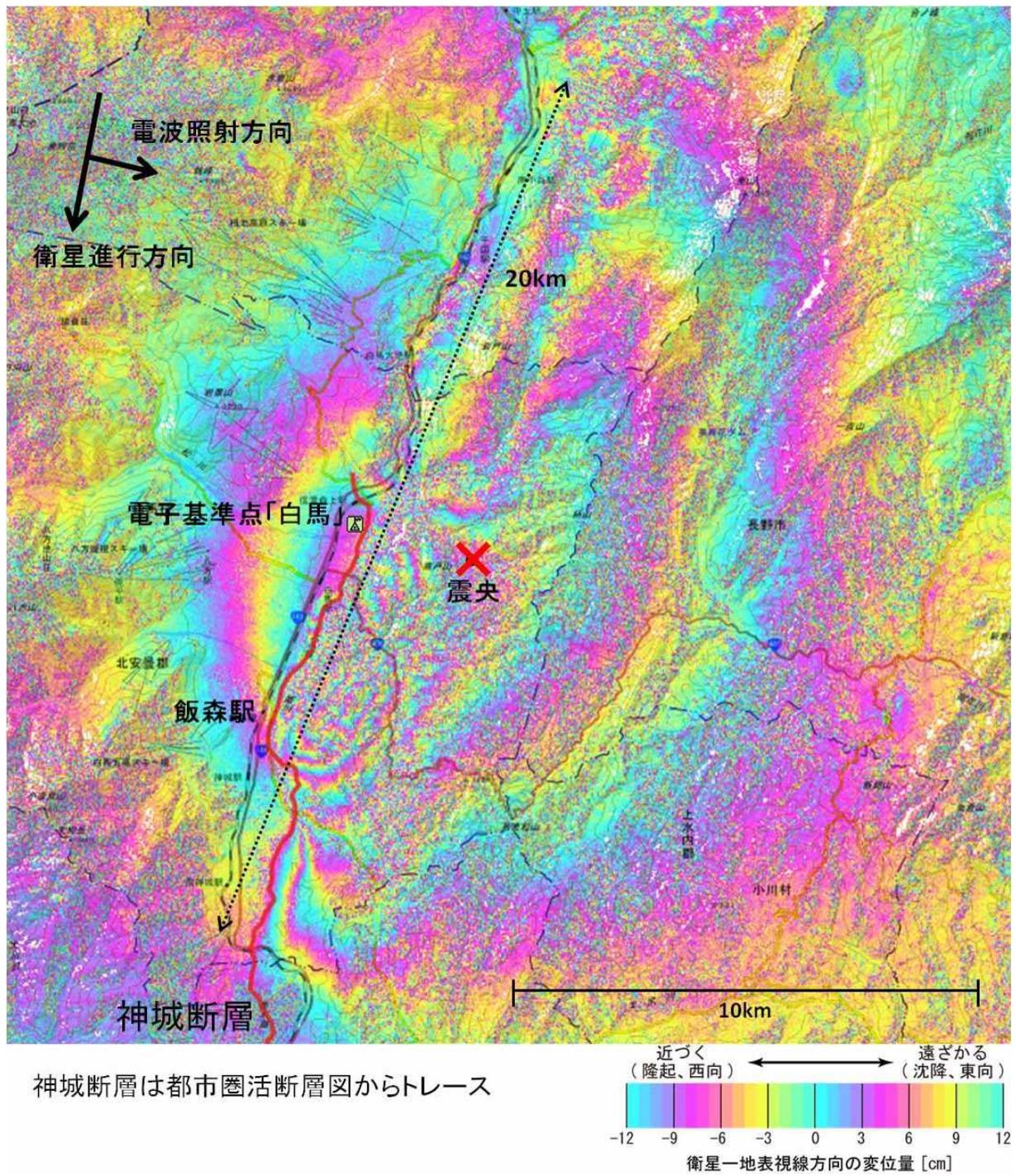


図 4. 震源再計算後の震央分布図, M-T 図, 回数積算図 (気象庁 [課題番号 7019])
 1975 年のカタログの精度が大幅に向上した。



神城断層は都市圏活断層図からトレース

図 5. SAR 干渉解析で捉えた長野県北部の地震に伴う地殻変動 (2014 年 10 月 2 日-11 月 27 日) (国土地理院 [課題番号 6008])

防災科学技術研究所では、3種類の地震観測網により日本全国1,800以上の地点で地震の観測を行っています。

本サイトでは、これらの観測網による地震観測情報、研究成果を統合的に配信しています。



▶ 高感度地震観測網 [Hi-net]	▶ 広帯域地震観測網 [F-net]	▶ 強震観測網 [K-NET / KiK-net]
<p>Hi-net NIED</p> <p>人が感じないほど微弱な揺れまで捉える観測網で、震源位置の決定や地下構造の推定などに活用されています。</p>  	<p>F-net NIED</p> <p>非常にゆっくりとした揺れまで捉える観測網で、地震のメカニズム解や地下構造の推定などに活用されています。</p>  	<p>K-NET / KiK-net</p> <p>被害をおこすほど強い揺れまで捉える観測網で、地震ハザード・被害リスク評価などに活用されています。</p>  

図 6. 基盤的地震観測施設の安定的運用 ((独) 防災科学技術研究所 [課題番号 3004])
Hi-net, F-net, K-NET, KiK-net は、良質なデータを生産し続けている。

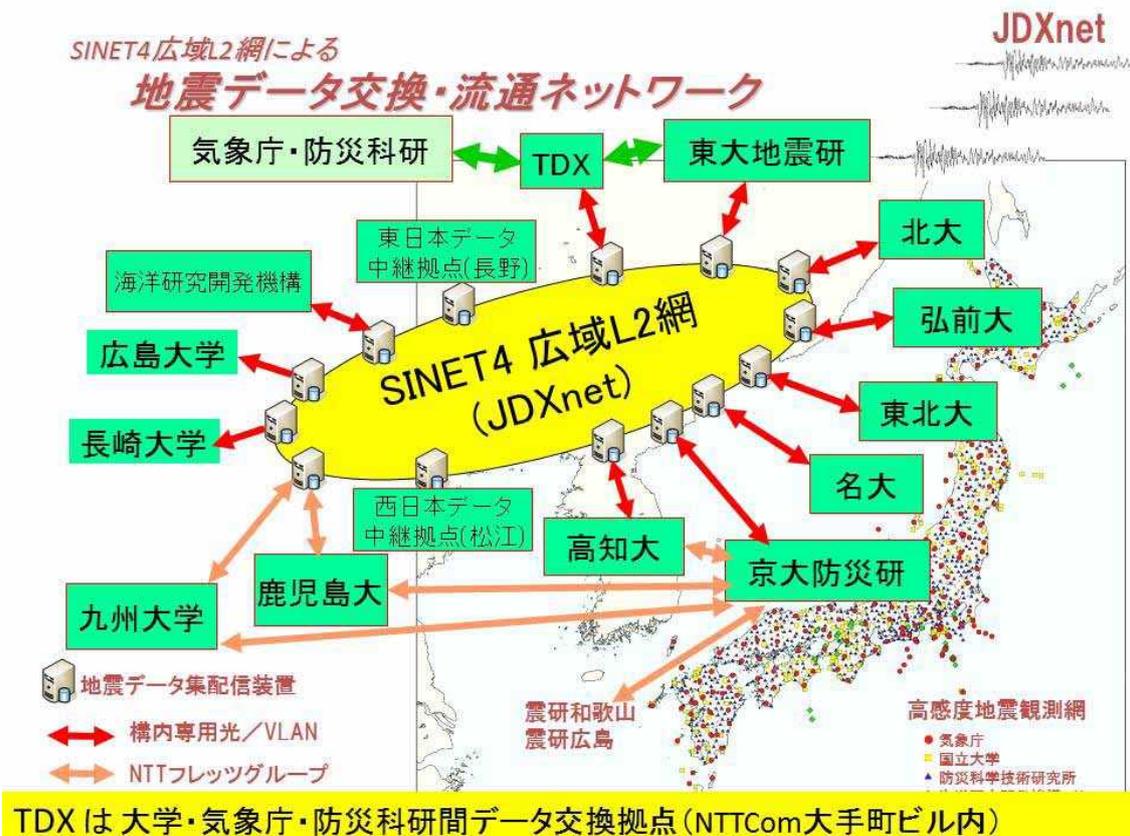


図 7. SINET4 による JDXnet 概念図 (東京大学地震研究所 [課題番号 1518])
大学・気象庁・防災科研他の観測点からのデータがリアルタイムで集配信されている。

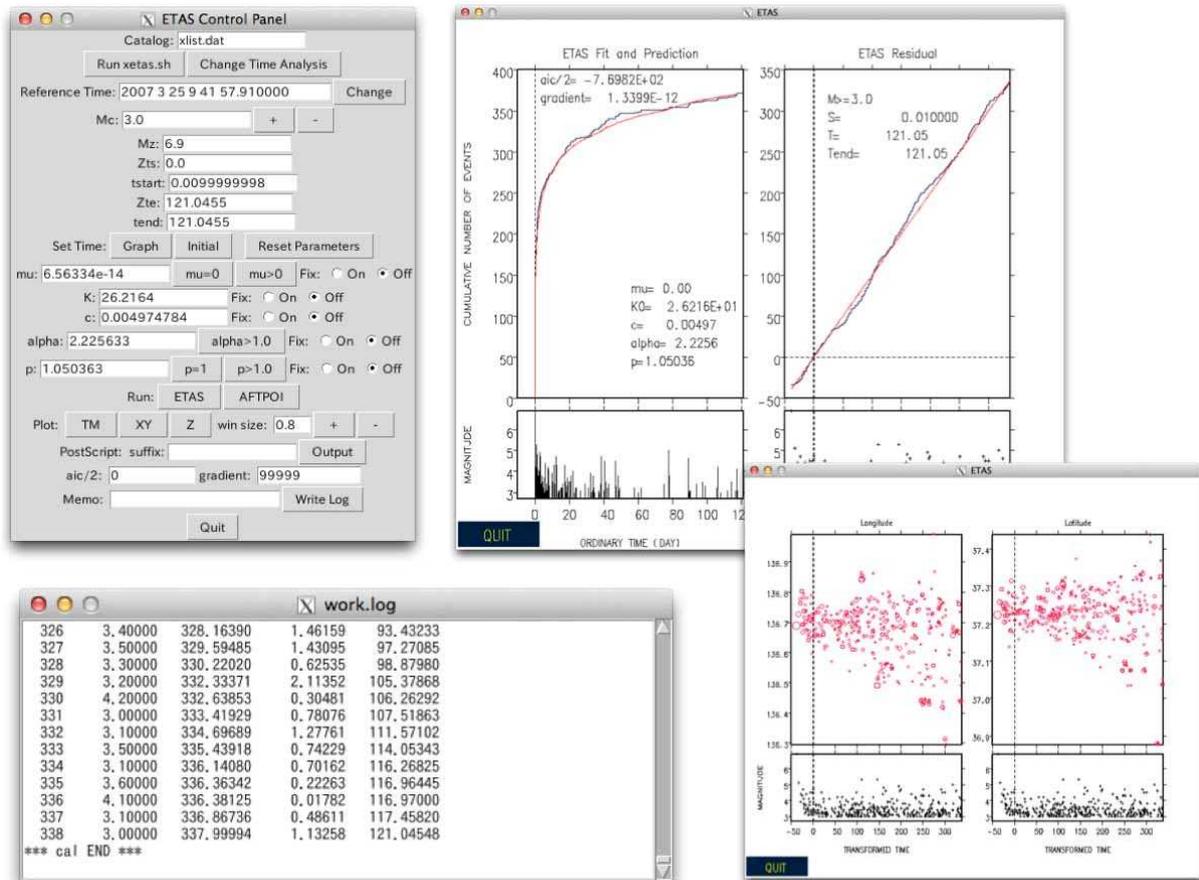


図 8. GUI を用いた ETAS 解析ツール（東京大学地震研究所 [課題番号 1519]）
地震活動解析のグローバルスタンダードである ETAS 解析が GUI を用いて直感的に実行できるツールである。